



青森英語教育実践サークル 出張研究会 2016年11月28日

青森市でも、授業研究会を立ち上げるにあたり、第1回の授業公開という名誉ある役をいただきました。第1回という大役に戸惑いもありましたが、私のもっとも他地区の先生が私の授業を見てどのような感想を持たれるのか、そこから得られるフィードバックはきっと今後の役に立つものだと思います、引き受けさせていただきました。当日は21名という非常に多くの先生が参加してくださいました。

当日の流れと感想

授業を指導過程ごとに区切って、ビデオを見て、質疑応答という形で研究会を進めました。導入のベル着のための「ビデオを見せる」、「今日は何の日」、「ビンゴ」の段階から、非常に活発な意見が出されました。当初の予定ではグループでのディスカッションは3分、全体の発表が5分という時間配当でしたが、それでは全く足りず、音読の箇所をカットせざるを得ない形になってしまいました。まさに、「遠慮せずに何でも言い合える研究会」というテーマ通りの研究会になったと思います。また、その分、青森の先生方の授業改善に対する熱意を感じることができました。出された意見の一部としては以下のようなものが挙げられます。

- ▶ ビデオをプロジェクターで投影しているが、10分休みで準備しきれぬのか？
- ▶ 英語専用教室があると、非常に便利である。学級数減で空き教室がある場合は積極的に活用すべきなのではないか？
- ▶ 今日は何の日の時に、すべての生徒がしっかり教師の話の話を聞いている様子が見られる。
- ▶ 1分間話が續かない生徒に対する支援はあるのか？
- ▶ ビンゴをやって語彙力が伸びるといえるのか？
- ▶ リプロダクションの時、キーワードや絵などをどのように設定しているか？
- ▶ リプロダクションは非常に効果的だと思う、明日からやってみよう。
- ▶ リプロダクションの評価はどうしているのか？ Did you can sleep last night? のような文法的なミスはどう対処するのか？

その後、青森公立大学の丹藤准教授から「次期学習指導要領について—審議のまとめ(案)から見えること—」というタイトルで講演をいただきました。「周知徹底」の時期をとったり、「先行実施」を長い間とるなどの必要があるくらい時期学習指導要領の変更は非常に大きなものであること。そこで求められる「外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力」について、さらに中学年からスタートになる小学校外国語活動の学習内容、そして高学年で文字をどの程度まで指導するのかなど、英語に携わる私たちには非常に関心の高い事柄について、詳しく説明していただきました。

おわりに

青森英語教育実践サークルの立ち上げおめでとうございます。研究会の冒頭で私が偉そうに言ったことを繰り返すようですが、児童生徒数が減っている今、学校に配属になる英語担当の先生の数が減って(中には一人だけ)いる状況で、なかなか先輩から授業に対して指導をもらえるチャンスがないという



のが大きな問題だと考えています。そのため、見当違いの授業を、独りよがりで行ってしまったり、反対に「これでいいのだろうか？」と不安な思いで授業をしている先生が多いのではないのでしょうか？僕は初任の学校で、先輩の体育の先生に「おい、わけものこっちゃ来い（おいそこの若者こっちへ来なさい）」と言われて名列票のハンコの押し方から指導してもらった記憶があります。当時は「別にハンコの押し方なんてどうでもいいし、いちいちめんどくさいな」と思っていたのですが（せっかく教えてくれた先生すみません。今はほんとに感謝しています）、気がつけばこの10年、そのやり方で何十枚という名列票にハンコを押してきました。だからこそ、このような研究会を立ち上げ、英語教師同士で情報交換したり、時には先輩から厳しい指導や指摘をいただいて身を引き締めることが私たちには必要なのだと思います。

青森英語授業実践サークルは、弘前の英語指導研究会とは兄弟のような存在だと思っています。お互いが協力し合ったり、またいい意味でライバル意識をもって研究会を重ねることが、きっと青森全体の英語教育の向上に貢献すると信じています。（文責 佐藤）